

「東京学芸大学版特別活動評価スタンダード&シート」の教育実践への適用 —小学校の児童会活動、クラブ活動、学校行事を通して—

林 尚示（東京学芸大学教育学部） 杉森伸吉（東京学芸大学教育学部）

布施 梓（東京学芸大学教育学部） 元 笑予（東京学芸大学教育学部）

キーワード: 小学校、特別活動、評価、スタンダード、シート

1 研究の背景と目的

現在、OECD (Organisation for Economic Co-operation and Development: 経済協力開発機構) を中心とした世界規模でのコンピテンシーを基礎に置く教育研究が進められている。コンピテンシー (competency) について、OECD は図 1 のように整理しており、コンピテンシーの育成は、責任の遂行、緊張やジレンマへの対処、価値の創造をもたらし、最終的に 2030 年の段階で、個人と社会の幸福をもたらすもとして定義されている。

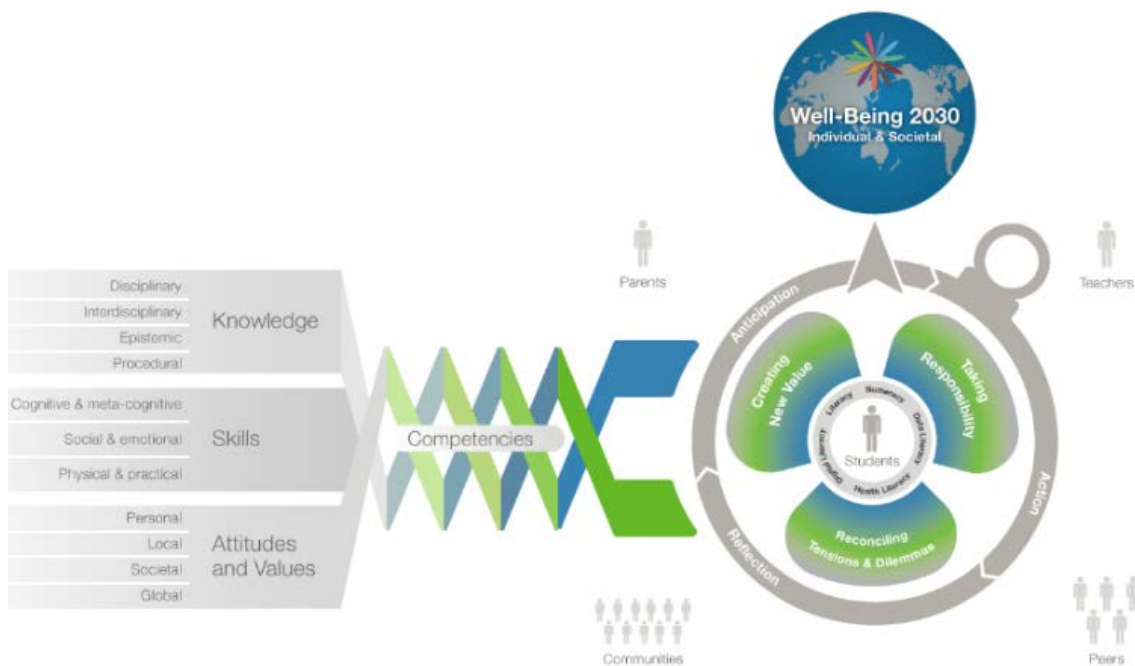


図 1 The OECD Learning Compass (OECD 2018)

この世界規模の教育研究の流れを受けて、文部科学省による「小学校学習指導要領(平成 29 年告示)」は、これまでのコンテンツに基礎を置く指導(Content-Based Instruction、CBI)からコンピテンシーに基礎を置く学習(Competency-Based Learning、CBL)を重視する方向に転換している。文部科学省ではコンピテンシーを資質・能力ととらえて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の 3 つを提示している。これを受けて、特別活動においてもコンピテンシーに着目した評価方法が必要となっている。東京学芸大学次世代教育研究推進機構で継続している一連の特別活動研究では、この文部科学省の 3 つの資質・能力を元にして、「東京学芸大学版特別活動評価スタンダード&シート」(以下、「TGU 特活スタンダード&シート」と

略す。)を開発した。「TGU 特活スタンダード&シート」は、現職教員を対象としたインタビュー調査、国立教育政策研究所教育課程研究センターが公開している学習指導案分析及び中央教育審議会の資料を活用して作成したものである。

なお、本研究に関連する先行研究としては、次のものがある。1 つ目は、東京学芸大学が JTB と共同研究を実施し製品開発した「学校行事評価システム SEAS」(School Events Analyzing System) (杉森・福井・林他 2012)である。これは、中学校や高等学校の学校行事の成果を生徒対象質問紙から顕在化させるものである。しかし、小学校を主な対象としていないことや、「確かな学力」、「豊かな人間性」、「健康・体力」などの「生きる力」をねらいとした過去の学習指導要領に準拠して作成されたものであることをふまえると、本研究でそのままの活用することは難しい。

2 つ目は、「TGU 特活スタンダード&シート」を小学校学級活動に適用した研究として、「平成 29 年度文部科学省機能強化経費『機能強化促進分対象事業』第 2 回東京学芸大学次世代教育推進機構(NGE)シンポジウム 21 世紀のコンピテンシーを育成するための指導・学習評価の在り方とは？—OECD との協働による指導・学習モデルと新しい評価方法の実際—」(東京学芸大学次世代教育研究推進機構 2018)とそれに至る一連の研究がある。しかし、学級活動への適用についてのみ検証されている。そのため、他の内容である児童会活動、クラブ活動、学校行事について、適用が可能であるかどうか、現時点でははっきりしていない。

そこで、本研究では 2018 年 3 月に公表した「TGU 特活スタンダード&シート」を活用して、小学校の児童会活動、クラブ活動、学校行事の分析を行う。小学校の特別活動とは、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事で構成される教育活動である。しかし、先行研究においては特別活動の学級活動のみ検証がなされている。そして、それ以外の各活動・学校行事は検証されていない。このことにより、「TGU 特活スタンダード&シート」が、先行研究で活用可能とされた学級活動以外の特別活動の内容である児童会活動、クラブ活動、学校行事でも活用ができるかどうかを明らかにしたい。

従来、観察者の主観が大きく作用する評価が主流であった(林・杉森・布施・元 2018)。しかし、本研究によって「TGU 特活スタンダード&シート」が学級活動を含めたすべての特別活動の内容に対して適用できることがわかると、全国の特別活動の実践が共通の規準で検証可能となる。このことは、「小学校学習指導要領(平成 29 年告示)」に対応した特別活動の授業開発を支援することにつながる。

2 研究方法

本研究では、小学校特別活動の中でも特に児童会活動、クラブ活動、学校行事に焦点をあてた。2016 年 12 月から 2018 年 3 月まで、東京都八王子市立式分方小学校で特別活動の実践映像を収録した。そして、既に公表した学級活動以外の児童会活動、クラブ活動、学校行事全 11 活動を「TGU 特活スタンダード&シート」使用して、分析した。活用した「TGU 特活スタンダード」を表 1 に示す。「TGU 特活スタンダード」は、OECD の知識、スキル、態度・価値を文部科学省の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」に大きく 3 区分した。そしてそれぞれについて、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点別に細分化している。それぞれの小区分をさらに、2 つに分けて現職教員対象インタビュー調査の結果もふまえてスタンダードの項目を設定した。

3 結果

「TGU特活スタンダード&シート」を用いた分析結果を以下に示す。分析方法は、映像撮影及びそれを元にトランスクリプトの作成を行い、評価場面を抽出した。場面の抽出は、映像やトランスクリプトから客観的に見とれる行動や発言によって行った。そして、「TGU特活スタンダード」に対応する評価項目を選択した。選択に際しては、教育学の研究者、教育心理学の研究者、教科教育の研究者の計3名による合議に基づき、合意形成されたもののみを抽出した。

表1 東京学芸大学版特別活動評価スタンダード

資質・能力別	視点別	教員の観察評価の規準	略称	特徴
知識・技能	人間関係形成	他者と協働する意義がわかる。	協働・意義	グループ活動に積極的に取り組む場面
		他者と協働する方法がわかる。	協働・方法	他者と相互にコミュニケーションする手立てがわかっている場面
	社会参画	集団活動に参画する意義がわかる。	参画・意義	グループやクラスでの計画・活動に積極的に取り組む場面
		集団活動に参画する方法がわかる。	参画・方法	グループやクラスの計画・活動に参加する手立てがわかっている場面
	自己実現	自己の課題を発見し改善する意義がわかる。	自己改善・意義	自己の課題発見の活動に積極的に取り組む場面
		自己の課題を発見し改善する方法がわかる。	自己改善・方法	自己の課題を改善する手立てがわかっている場面
思考力・判断力・表現力等	人間関係形成	互いのよさを活かす考え方ができる。	互い・活かす	互いの意見を活かそうとしている場面
		互いに認め合うことができる。	互い・認める	互いの意見等を認め合う場面
	社会参画	集団での合意形成に参加できる。	合意形成・参加	グループやクラスの話合い活動等で意見の一致を図ろうとする場面
		問題解決に主体的に取り組むことができる。	問題解決・主体的	自ら解決策を考え、提案している場面
	自己実現	自己の生活の課題を見出すことができる。	生活課題・見出す	自己の生活の課題についての発言が見られる場面
		自己の生活の課題を解決することができる。	生活課題・解決	自己の生活での課題の解決策を考え、提案している場面
学びに向かう力・人間性等	人間関係形成	人間関係をよりよく構築しようとしている。	人間関係・構築	他者との関係づくりに取り組もうとしている場面
		自主的・実践的に他者と関わろうとしている。	実践的・関わり	他者に積極的にコミュニケーションを取ろうとしている場面
	社会参画	集団生活をよりよく形成しようとしている。	集団生活・形成	他者を思いやった行動を取れる活動場面
		集団での学びに参画しようとしている。	学び・参画	グループやクラスのことを考えながら発言している場面
	自己実現	自己の生き方についての考え方を深めようとしている。	生き方・深める	自己の今後の行動について具体的に説明しようとしている場面
		自己の実現を図ろうとしている。	自己実現・図る	自己の内面にある能力や可能性を活動につなげる場面

著作: 杉森・林・布施・元(東京学芸大学次世代教育研究推進機構 2018)

全11の活動は「小学校学習指導要領(平成29年告示)」の児童会活動(1)の3活動、児童会活動(3)の1活動、クラブ活動(1)の3活動、クラブ活動(2)の1活動、学校行事(1)儀式的行事の2活動、学校行事(4)遠足・集団宿泊的行事の1活動である。

3.1 児童会活動の分析例

児童会活動の内容は、「小学校学習指導要領(平成29年告示)」で「学校の全児童をもって組織する児童会において、学校生活の充実と向上を図る活動を行うこと。」とされ、(1)児童会の計画や運営、(2)異年齢集団による交流、(3)学校行事への協力、の3つに分けられている。

図2は、児童会活動(1)の検証結果の例である。この活動は、「ミニ式分方小祭り」と呼ばれる学校全体で行う交流行事について、4年生から6年生までの各学級の代表委員が話し合う委員会活動であった。

場面1では、全体での話し合い開始の際に、司会が議題の確認をしている。これは他者と協働する方法として、話し合いの役割・手順を実践できている行動と見て取れ、「TGU特活スタンダード」の「他者と協働する方法がわかる」に対応するとした。

場面2では、役割ごとに作業量を考慮して、期限についての設定を行っている。この行動・発言からは、「TGU特活スタンダード」の「集団での合意形成に参加できる。」「問題解決に主体的に取り組むことができる。」「自主的・実践的に他者と関わろうとしている。」に対応するとした。同様の方法で、児童会活動(1)を2活動、(3)を1活動の評価場面を抽出した。

番号	学年	児童会活動	写真の例 ミニ式分方小まつり代表委員会	時間	場面説明	トランスクリプト	協働・意義	協働・方法	参画・意義	参画・方法	自己改善・意義	自己改善・方法	互い・活かす	互い・認める	合意形成・参加	問題解決・主体的	生活課題・見出す	人間関係・構築	実践的・関わり	集団生活・形成	学び・参画	生き方・深める	自己実現・図る
1	4 6	(1)		1:00	全体での話し合い 司会の議題確認	A: これから第二回代表委員会を始めます。全校が楽しめる式分方祭りにしようで、提案理由は、今はすごい楽しいけど、学年を越え切れてない。次に武部方小祭りで学年・男女を飛び越えていく、ゴールは、武部方小全体で仲良しになるという提案理由でいいですか。 全体: はい ※他者と協働する方法として、話し合いの役割・実践している。	●																
2	4 6	(1)		11:41	役割ごとに作業量を考慮して、期限についての設定を行っている。	G1: 今度の月曜日何する。 G2: 6日後 G3: 25? でも4,5,6 (=作業項目)があるじゃん。 G2: やっぱ31じゃね? G3: 31か。 G2: 6月内でしょ。 G3: 31にして、ボックスも作るから。 ※実践的・他者と関わり、合意形成に、主体的に取り組んでいる。									●	●			●				

図2 東京学芸大学版特別活動評価シートの検証例——児童会活動(1)

3.2 クラブ活動の分析例

クラブ活動の内容は、「小学校学習指導要領(平成29年告示)」で「学年や学級の所属を離れ、主として第4学年以上の同好の児童をもって組織するクラブにおいて、異年齢集団の交流を深め、共通の興味・関心を追及する活動を行うこと。」とされ、(1)クラブの計画や運営、(2)クラブを楽しむ活動、(3)クラブの成果の発表、の3つに分けられている。

図3は、クラブ活動(1)の検証結果の例である。この活動は、「ピンポンクラブ」が年間のめあてを

決める内容であった。場面1では、クラブのめあてを決めている。これは他の人の意見に賛同して発言している行動と見て取れ、「TGU特活スタンダード」の「互いのよさを活かす考え方ができる。」、「互いに認め合うことができる。」に対応するとした。

場面2でも、クラブのめあてを決めている。この児童B2の発言は集団活動に関わることを意識しており、「TGU特活スタンダード」の「集団活動に参画する意義がわかる。」に対応するとした。同様の方法で、クラブ活動(1)の3活動、クラブ活動(2)の1活動の評価場面を抽出した。



番号	学年	クラブ活動	写真の例 ピンポンクラブ活動	時間	場面説明	トランスクリプト	協働・意義	協働・方法	参画・意義	参画・方法	自己改善・意義	自己改善・方法	互い・活かす	互い・認める	合意形成・参加	問題解決・主体的	生活課題・見出す	生活課題・解決	人間関係・構築	実践的・関わり	集団生活・形成	学び・参画	生き方・深める	自己実現・図る	
1	4	(1)		0:21	クラブめあてを決める場面	A: 僕は「最高」がいいと思います。なぜなら、卓球のほうが最高と思うから、「最高」のほうがいいと思います。 ※他の人の意見に賛同した発言していること。							●	●											
2	4	(1)		1:15	同上	B1: 「チームワーク」、「支えあう」について、意見がありますか。 B2: クラブ活動は、支えあうというか、クラブ活動っていうのは、支えあっているものだから、それは「支えあう」のほうがいいと思います。 ※集団活動に参画する意義を踏まえた発言。			●																

図3 東京学芸大学版特別活動評価シートの検証例——クラブ活動(1)

3.3 学校行事の分析例1

学校行事の内容は、「小学校学習指導要領(平成29年告示)」で「全校又は学年を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行うこと。」とされ、(1)儀式的行事、(2)文化的行事、(3)健康安全・体育的行事、(4)遠足・集団宿泊的行事、(5)勤労生産・奉仕的行事、の5つに分けられている。

図4は、学校行事(3)の検証結果の例である。この活動は、全校で、各学級が用意したゲームや遊びを楽しむ活動であり、先述の児童会活動でも、この会に向けた話合いが行われており、特別活動の内容が児童会活動のみで実践されるものではなく、各活動・行事を横断する形態で実施されている例とも言える。



番号	学年	学校行事	写真の例 式分方祭り準備	時間	場面説明	トランスクリプト	協働・意義	協働・方法	参画・意義	参画・方法	自己改善・意義	自己改善・方法	互い・活かす	互い・認める	合意形成・参加	問題解決・主体的	生活課題・見出す	生活課題・解決	人間関係・構築	実践的・関わり	集団生活・形成	学び・参画	生き方・深める	自己実現・図る	
1	5	(1)		2:40	ゲームの説明の仕方について、互いにアイデアを出している。	A1: あまり強く踏らないでください。1人10球までです。 A2: もうちょっと大きな声の方がいい。 A3: (本番は) この倍の音楽が流れると思って。(BGM) ※課題を指摘して、改善意見を伝えている。		●		●	●														
2	5	(1)		3:40	準備ふりかえり場面	C: 明日が本番なので、自分のやるべきことを全てやって、みんなで協力しあって、色々な学年が来たとき、憧れをもってもらうため、みんなで協力し、一人ひとりのつながりを生かし頑張ります。 ※集団のモチベーションを高めるような意見を述べている。														●	●	●			

図4 東京学芸大学版特別活動評価シートの検証例——学校行事(1)

場面1は、ゲームの説明を練習している様子である。声を大きくする提案をするなど、他者と協働しながら集団活動に参画し、課題を改善している様子が見られた。これは、「TGU特活スタンダード」の「他者と協働する方法がわかる。」、「集団活動に参画する方法がわかる。」、「自己の課題を発見し改善する意義がわかる。」に対応するとした。

場面2は、ゲームブースの準備が終わり、本番前のリハーサルに向けた話合いの場面である。ここで児童Cは自主的に発言する意思を見せ、集団のモチベーションを高めるような意見を述べている。このことは、「TGU特活スタンダード」の「自主的・実践的に他者と関わろうとしている。」、「集団生活をよりよく構築しようとしている。」、「集団活動に参画しようとしている。」に対応するとした。

3.4 学校行事の分析例2

図4は、学校行事(4)遠足・集団宿泊的行事の検証結果の例である。この活動は、全校遠足であり、学校近郊の公園へ徒歩で出掛け、縦割り班でのゲーム・外遊びを行う内容であった。学校に帰着後には、縦割り班ごとに振り返りの時間を設けている。

場面1は、昼食の時間である。これは集団活動に関わることを意識しており、「TGU特活スタンダード」の「集団活動に参画する意義がわかる。」に対応するとした。

場面2では、学校に帰着直後の振り返りである。これは自己の課題を発見し改善する意義をふまえて、集団生活をよりよく構築しようとしている発言と見て取れ、「TGU特活スタンダード」の「自己の生活の課題を見出すことができる。」、「集団生活をよりよく形成しようとしている。」に対応するとした。同様の方法で、学校行事(1)の2活動の評価場面を抽出した。



番号	学年	学校行事	写真の例 全校遠足	時間	場面説明	トランスクリプト	協働・意義	協働・方法	参画・意義	参画・方法	自己改善・意義	自己改善・方法	互い・活かす	互い・認める	合意形成・参加	問題解決・主体的	生活課題・見出す	生活課題・解決	人間関係・構築	実践的・関わり	集団生活・形成	学び・参画	生き方・深める	自己実現・関る
1	1 6	(4)		0:30	遠足中のお昼の時間	A1: みんな準備できてますか? A2: 待って、待って。 A1: じゃ、いただきます。 全員: いただきます。 ※集団活動に参画する意義を踏まえた発言。			●															
2	1 6	(4)		13:15	遠足後の振り返り	C: 今日は最後の全校遠足で、前の6年生のすごさがやっぱり直で分かるのが、すごくうれしくて、そんなに6年生に苦労だな(と思わなかった)。ごみ拾いの時に、僕は袋を忘れて、いろんな人が袋にごみを捨てさせてくれて、そういうところが協力して、次の5年生とかは頑張ってください。 全員: 拍手 ※自己の課題を発見し改善する意義を踏まえて、集団生活をよりよく構築しようとしている。															●			

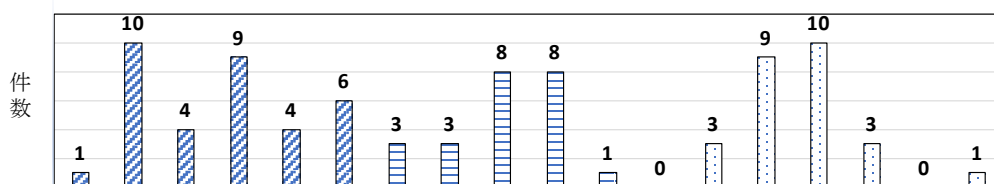
図5 東京学芸大学版特別活動評価シートの検証例——学校行事(4)

4 児童会活動、クラブ活動、学校行事の全11活動の集計結果

先述の4つの例と同様の方法で、今回得られている全11活動の映像について分析を行い、その集計結果を表2に示す。全体では、「TGU特活スタンダード」の評価項目に対応するものが83あった。児童会活動(4つの映像)について29(平均7.25)、クラブ活動(4つの映像)について28(平均7)、学校行事(3つの映像)について26(平均8.67)あった。以下で具体的に説明する。

表2 児童会活動・クラブ活動・学校行事の11活動での集計とグラフ

	協働・意義	協働・方法	参画・意義	参画・方法	自己改善・意義	自己改善・方法	互い・活かす	互い・認める	合意形成・参加	問題解決・主体的	生活課題・見出す	生活課題・解決	人間関係・構築	実践的・関わり	集団生活・形成	学び・参画	生き方・深める	自己実現・図る
児童会活動 代表委員会		●							●	●				●				
児童会活動 計画委員会		●							●	●								
児童会活動 集会委員会				●				●	●	●				●	●			
児童会活動 図書委員会	●	●	●				●								●	●		
クラブ活動 ゴルフボール			●	●	●	●								●				
クラブ活動 手芸&クッキング クラブ							●	●	●	●			●		●			
クラブ活動 ヒップホップ ダ ンスクラブ				●	●								●		●			●
クラブ活動 ピンポンクラブ			●				●	●	●									
学校行事 アピール集会	●	●		●														
学校行事 式分方祭り 準備	●		●	●										●	●	●	●	
学校行事 全校遠足		●	●		●						●				●			
計	1	10	4	9	4	6	3	3	8	8	1	0	3	9	10	3	0	1



1つ目は、文部科学省の資質・能力別に見ると、「知識・技能」に関する集計は34、「思考力・判断力・表現力等」に関する集計は23、「学びに向かう力・人間性等」に関する集計は26であった。この結果から、今回の検証例では、特に「知識・技能」のチェック数が多いことがわかった。すなわち、「小学校学習指導要領(平成29年告示)」における特別活動の内容区分では、「児童会活動」、「クラブ活動」、「学校行事」すべてにおいて知識・技能の育成場面が、比較的多く含まれていた。さらに、「知識・技能」の34を、文部科学省の「特別活動において育成を目指す資質・能力の整理」を元に分析すると、「多様な他者と協働する様々な集団活動の意義の理解」に該当するものが9、「様々な集団活動を実践する上で必要となることへの理解や技能」に該当するものが25となった。これについては、指導計画上、後者の育成場面が多く含まれていた可能性があるという解釈と、後者の方が発言や行動で評価し易かったという解釈の両方が考えられる。

2つ目は、特別活動で資質・能力の育成を図るための3視点から見ると、「人間関係形成」に関する集計は29、「社会参画」に関する集計は42、「自己実現」に関する集計は12であった。この結果から、特に、社会参画が多いことがわかった。また、社会参画の評価項目の内訳では、「知識・技能」で13、「思考力・判断力・表現力等」で16、「学びに向かう力・人間性等」で13あり、バランスよく評価場面を見出せていることがわかった。次に多い人間関係形成の評価項目の内訳では、「知識・技能」で11、「思考力・判断力・表現力等」で6、「学びに向かう力・人間性等」で12あった。「思考力・判断力・表現力等」は、他に比べて少ないことがわかった。

3つ目は、「TGU 特活スタンダード」における「自己の生活の課題を解決することができる。」、「自己の生き方についての考え方を深めようとしている。」について集計が0であったことである。これは今回検証した活動例では、「自己の生活の課題」や「自己の生き方」についての具体的なテーマ設定がなかったことが理由と考えられる。ちなみに先行研究においては、「自己の生活の課題をすることができる。」の評価場面は学級活動(2)で、「自己の生き方についての考え方を深めようとしている。」については学級活動(3)の分析で見られている。従って、今回分析した事例からは、学級活動(2)、(3)と比較して、上記の2項目について、評価場面が見られにくい活動となっていた。

5 考察

結果から、次の3つのことが考えられる。

- ①児童会活動、クラブ活動、学校行事の11活動を分析した結果、「TGU 特活スタンダード」の18評価項目のうち16評価項目に該当する評価場面が存在した。このことから、「TGU 特活スタンダード&シート」は、児童会活動、クラブ活動、学校行事の評価に、適用可能であることがわかった。
- ②評価可能な(しやすい)場面、すなわち客観的に評価項目に当てはめやすい場面は、話合いや振り返り等、児童が発言したり、意見交換したりする場面に多かった。このことから、話合いや振り返り等の、児童同士が意見交換できる時間を、どのような活動でも意図的に設けることで、客観的な評価場面を作り出せることがわかった。「TGU 特活スタンダード&シート」は「小学校学習指導要領(平成29年告示)」の特別活動の目標に準拠している。「TGU 特活スタンダード」の項目を意識しながら授業を計画すると、特別活動の本来の意図が活かされることとなる。

③一部チェックされなかった評価項目があった。このことから、今後検証のための教育実践の数を増やすか、または評価項目自体を再検証していく必要があることもわかった。特に、「TGU 特活スタンダード」の「教員の観察評価の規準」の各項目について再検討したい。教員対象に活用のしやすさについて、インタビュー調査も行いたい。

6 結論

本研究では、「TGU 特活スタンダード&シート」を活用して、先行研究で活用可能とされた学級活動以外の特別活動の内容である児童会活動、クラブ活動、学校行事でも適応できることを検証した。その結果、以下の2点が指摘できた。

①「TGU 特活スタンダード&シート」が、これまでに明らかにされている学級活動での適用に限らず、特別活動全活動について、教師が授業で児童の資質・能力を育成できる場面を把握する指標となり得ることが明らかになった。

②「TGU 特活スタンダード&シート」の視点を、授業実施者が授業作りの段階から留意することで、特別活動の各活動を統一的に計画し、実施しやすくなることが明らかになった。

なお、今後の課題としては、検証数を増やし、評価項目をより最適化していき、「TGU 特活スタンダード&シート」の妥当性を高めていくことで、上記①、②の効果が、より確かなものとなる。また、資質・能力が高まった実践とそうではない実践を比較し、「TGU 特活スタンダード&シート」の有効性を確認していきたい。さらに、一人一人の子どもが、どのように変容したかという視点から学習活動の分析にも活用できるかどうか検証を進めたい。

7 引用文献

林尚示・杉森伸吉・布施梓・元笑予(2018) 「小学校学級活動の授業を評価する方法の開発に関する研究—特別活動の評価表現分析を活用して—」 教育実践学会、pp.109-120。

OECD (2018) The FUTURE OF EDUCATION AND SKILLS Education 2030

<<http://www.oecd.org/education/2030/oecd-education-2030-position-paper.pdf>>

2018年11月13日確認。

杉森伸吉・福井里江・林尚示・古屋真・彦坂秀樹(2012)「小学校の学校行事が「生きる力」をどう高めるか?—学校行事評価システム(SEAS)を活用した児童の視点からの効果評価—」、日本教育心理学会第54回総会発表論文集、p.528。

東京学芸大学次世代教育研究推進機構(2018)「平成29年度文部科学省機能機強化経費『機能強化促進分対象事業』第2回東京学芸大学次世代教育推進機構(NGE)シンポジウム21世紀のコンピテンシーを育成するための指導・学習評価の在り方とは?—OECDとの協働による指導・学習モデルと新しい評価方法の実際—」、一橋講堂での発表要旨、pp.35-38。

【謝辞】

本研究は、東京学芸大学「日本における次世代対応型教育モデルの研究開発」(文部科学省機能強化経費「機能強化促進分」対象事業)の研究成果の一部です。ご協力いただいた八王子市立貳分方小学校のみなさまに感謝申し上げます。